

日台「文化」相關大學科系的命名差異性 —從比較文化論展開社會人文科系類別化語彙之探討—

落合由治

淡江大學日本語文學系教授

摘要

擁有具體的社會類別之語彙，帶著主體脈絡的特性，是非一般常見的特質。在此以個案研究為例，立足於同時性的異文化比較觀點，考察日本與台灣間以「文化」為命名的科系名稱屬性的差異。

考察結果顯示：日本以「文化」命名的相關科系以類比性的命名方式較為醒目。在日本整合了傳統的社會文科科系、推動日本區域的研究視點之日本以及各區域的研究主題。例如法律政治系列、自然科學系列、技術系列、商業經營系列、金融系列等應用為主的科系，與「文化」字眼沾上邊的情形較少。

另一方面，在台灣的「文化」相關科系以基本型的命名為主。通常僅見於工業、產業方面之軟體建置（美學經營）之運用或技術等教授、民族的主體性之探究、外語學習中一環之文化教授。

日本方面的「文化」是非營利性。與經濟獲利、制度、技術等社會的實質營運關係不深。而在台灣文化則與現代軟技術結合，只朝向實用・獲利方面來思考各文化的意義。

如此範疇分類化的差異性可推測是源自於日台文化間固有的價值觀的不同所致。

關鍵字：文化 科系 類別 語彙 範疇分類化

Expression structure of "Culture" related university subject name in Japan and Taiwan: About the research genre vocabulary on social and liberal arts course from the view point of cross-cultural theory

Ochiai Yuji

Professor, Tamkang University, Taiwan

Abstract

The vocabulary with a social genre has worn a parole characteristic of the subject. Therefore, the genre vocabulary has individuality different from generality. The key word: "Culture" of Japan and Taiwan is chosen as a case study by the viewpoint of the cross-cultural comparison. And, the this study is considered for the naming method of the subject name.

As a result, the naming of the family resemblance stands out as for the subject related to "Culture" of Japan. And, the reintegration of the liberal arts course social-affiliated subject and the area study where Japan is made a center are the main themes.

On the other hand, the subject related to "Culture" of Taiwan is named in the prototype. The theme educates and researches the software management and the skill in industry, and does the use limited to a peculiar search of a periphery race and the research education of the main current culture and in the studying a foreign language.

The difference of such a categorization is surmisable according to peculiar sense of values of each culture.

Keywords: culture, subject, genre, vocabulary, categorization

日台の「文化」関係大学学科名の表現構成 —社会系文科系研究ジャンル語彙の比較文化論的展望—

落合由治

淡江大学日本語文学科教授

要旨

具体的な社会的ジャンルを持った語彙は、主体のパロール的特性を帶びており、一般性からでは捉えられない個性を持っている。ここではひとつの事例研究として共時的に異文化間比較の観点で以下の観点で日本と台湾の「文化」をキーワードとした学科名の命名法を対象に考察を行ってみた。

その結果、日本の「文化」関連学科は家族的類似性の命名が目立った。そして、日本では旧来の文科系社会系学科の再統合、日本を中心とした地域研究的視点での日本および各各地域の研究推進が主要テーマで、法律政治系、自然系、技術系、ビジネス系、金融系など実学系の学科は「文化」と共起する例は少ないと分かった。

一方、台湾の「文化」関連学科はプロトタイプ的命名をしており、工業、産業でのソフト面（美的経営）の運営やスキルの研究教育、周縁的民族の固有性の探究、外国語学習による主流文化の研究教育に限定した使用が見られた。

日本での「文化」は、非実利的で経済活動、システム、技術など社会的物質的な運営との関係が希薄であるが、台湾では文化と現代のソフト技術を結合した実用的・実利的内容でしかも各文化の固有性の理解を志向している。

こうしたカテゴリー化の違いは、各文化の固有の価値観によると推測できる。

キーワード：文化 学科 ジャンル 語彙 カテゴリー化



日台の「文化」関係大学学科名の表現構成 —社会系文科系研究ジャンル語彙の比較文化論的展望—

落合由治

淡江大学日本語文学科教授

1. はじめに

日本語の語彙について、今まで非常に多くの研究がなされ詳細な論の蓄積が行われてきた。¹その中で近年の研究動向として、語彙のジャンル性に注目した一連の研究が行われるようになっている。前田直子（2014）によれば、従来の語形成・語構成、意味・用法、辞書などの各語彙論の分野で、特定の社会集団や社会的ジャンル（女性、新聞、テレビ、歌謡、看護、将棋、歴史、流行・若者語等）において使われる語彙の研究が活発化していることが報告されている。²語彙は、ソシュールが提起したように、語構成論やカテゴリー論等

¹ 日本での語彙論の各分野の概要は飛田良文編（2007）「一. 一般・理論 8 意味・語彙」「二. 日本語史 4. 語彙史」『日本語学研究事典』明治書院を参照。日本語教育でも語彙は基本的教育内容であり、重要な言語事項である。現在の日本語教育での捉え方は日本語教育学会編（2005）「3. 語彙・意味」『新版日本語教育事典』に通説が紹介されている。台湾でも台湾人日本語学習者のための基本語彙策定の試みが繰り返し行われている。台湾にも多くの語彙研究の蓄積があるが最近、台湾独自の視点に立って一定の社会的ジャンルとしての語彙論やその教育的応用を探求する試みとして賴錦雀（2011）「日本語教科書における日本文化理解—『日本語を学ぼう@Taiwan』を例に」『台灣日語教育學報』17 P1-27、賴錦雀（2012）「日本語教育における基本語彙—台日異文化交流能力育成をめざして」『世界日本語教育国際研究大会 2012 名古屋予稿集』、賴錦雀（2013）

「NS, CEFR, JFS 對專業日語教育語彙指導之啓示 『東吳日語教育學報』41 P34-68、賴錦雀（2014）「グローバル時代における台湾日本語教育の変化と挑戦」『東吳外語學報』38 東吳大学などの論がある。また、特定のジャンルの語彙を研究した論の例として、王敏東、許巍鐘（2012）「インフルエンザを表す名称について—1918／19 年のパンデミックを中心に—」『東吳外語學報』34P59-78、王敏東（2013）「新語の消長について—2008 年の各ジャンルにおける新語を例として—」『東吳外語學報』37P67-93 や林立萍（2014）『日本昔話語彙の研究』台大出版中心などがある。特定ジャンルの歴史的研究でも日本統治時代の特定分野の語彙やその現代での残存を考察した多くの論考があり、活発な研究が行われている。

² 前田直子（2014）「語彙（理論・現代）」『日本語の研究 特集 2012 年・2013

で普通に行われている特定の使用場面を切り離した一般化されたラングの単位としても、最近の研究動向のように特定の使用場面に限定されて使用されるパロールの単位としてもそれぞれ固有の特徴を形態的にも意味的にも示すような性格を持っていると言えよう。³こうした二面性を持つ語彙の特徴について、最初に社会的ジャンルに注目したのはミハイル・バフチンであろう。

話し言葉及び書き言葉を含めた文語そのものは、既にその共通の抽象的言語の諸特徴のみならず、これらの抽象的諸要素の意味づけ形式においても单一のものでありながら、自己の具体的な対象的意味と表現の側面においては、分化し言語的矛盾をはらんでいる。

この分化は、まず何よりもジャンルの特殊な構造によって規定されている。言語の個々の諸要素（語彙論的、意味論的、統辯論的等々の）は個々のジャンル—演説や社会評価、新聞・雑誌の諸ジャンル、下層の文学ジャンル（たとえば大衆小説）、そして最後に、大文学の様々なジャンルの志向の方向やそのジャンルに共通のアクセント体系と緊密に融合している。言語の個々の諸要素は、当該のジャンル特有の色彩を帶びている。⁴

本論文ではバフチンが提起した社会的ジャンルにおける語彙現象のひとつとして、日本と台湾の大学について社会系文科系学科の命名の表現を取り上げてみたい。大学の学科名は従来は対象に応じて形成された自然発生的で自明な分類のように思われてきたが、通時の観点で見れば実は1860年代以降、東洋に西洋の学術研究が急激に導入された時期から新たに生まれた語彙ジャンルで、日本の場合、明治期以降に社会的目的に応じて教育機関の学科分類と共に次第に

年における日本語学界の展望』10-3P41-48 参照。

³ フェルディナンド・ソシュール／景浦峠・田中久美子訳（2007）『ソシュール一般言語学講義—コンスタンタンのノート』東京大学出版会第II部参照。

⁴ ミハイル・バフチン／伊東一郎訳（1996／2005）『小説の言葉一付：「小説の言葉の前史より」』平凡社

形成されてきたもので、明治時代の学術名詞や学科分類と現代のそれとの間には非常に大きな差異が認められる。⁵共時的にもこうした学術や学科の分類に関する各社会文化集団間の差異は大きく⁶、ここではひとつの事例研究として共時的に異文化間比較の観点で以下の観点で日本と台湾の学科名の命名を対象に考察を行ってみたい。

- (1) 学部学科検索サイトを利用して文科系社会系学部について日本と台湾の国立私立の学部学科組織を比較し、「文化」や「国際」に関する社会系文科系領域がどのように分類され、認識されているか、学科名の語構成を分類整理する。
- (2) (1)を元にして、日本と台湾の学術分野に関する命名法を比較考察し、その命名法の相違をもたらした社会文化的背景を考察する。

以上の手順で以下、整理、考察を進めていきたい。

2. 日台大学の学部学科名称の命名法

以下、まず資料として提示したいのは、日台の大学教育で社会系文科系学部学科がどのような学科に関連づけて研究教育されているかという、研究教育ジャンルの分類の問題である。ここでは、社会系文科系学科の命名法の手掛かりとして、日台の大学、高等専門学

⁵ 日本の近代の学科名と研究教育状況の関係については、高等教育史を扱った天野郁夫（2005）『教育と日本の近代 学歴の社会史』平凡社、天野郁夫（2007）『近代日本の試験・教育・社会 「増補」試験の社会史』平凡社を参照。

⁶ 一例として、辞書の比較が根拠を示している。中島平三・瀬田幸人（2009）『オックスフォード言語学辞典』朝倉書店の採録項目を見ると、一般言語学、生成文法の用語を中心に解説し、言語史に関する項目は概念説明以外に個別の記述がなく、アルファベット順に学術語彙を配列説明しているのに対して、飛田良文編（2007）『日本語学研究事典』明治書院は、語彙、音声、文法、文章などの文法単位による分類で大項目が立てられ、その下に中分類、小分類が配置されている。また言語史関係の資料や歴史も詳細に記載されている。言語研究と言っても、研究内容をどう分類、整理し体系化するか、どの観点を重視するか、実は各文化圏や社会によって恣意的に決められたもので、多様性に富んでいることが辞書の編成から窺える。

校での「文化」の学科名をキーワードに調査をおこなってみた。

調査は 2013 年 5 月のデータであるが、元にしたデータベースは以下の二つである。

(1) 日本の学部学科名：日本の学校を総合的に案内している「ナレッジステーション」<http://www.gakkou.net/>

日本の大学の学部学科名に「文化」が入っている例は 209 校 445 例（2013 年の日本の全大学数は 783 校）があった。

(2) 台湾の学部学科名：全国の学部学科を検索できる「国立雲林科技大学教育部 102 學年度大學校院一覽表」

<http://ulist.moe.gov.tw/>

台湾の大学（全 160 校）の学部学科名で「文化」が入る例は 47 校 76 例見つかった。

以上について、学部学科に「文化」が入っている調査データを整理した結果は、論文末の付録に示している。以下、内容について見ていきたい。

2.1 日本の学科名命名の特徴

まず、日本の大学の学部学科名称での「文化」の位置付けであるが、概要を示すと以下のようになつた。

表 1 日本の学科名命名分類概要（データ量の関係で学部のみ）

特徴	学科名例	共起キーワード
①文学、語学、歴史、哲学、外国語、地理、教育、芸術関係のジャンル+日本と共に起する=149	文学部アジア文化学科 文学部コミュニケーション文化学科 文学部人文学科比較文化コース	文学／アジア／コミュニケーション／ドイツ語（圏）／フランス語（圏）／日本／歴史／比較／人文／欧米／社会／哲学／思想／倫理学／中国哲学／インド哲学／地理学／考古学／文化財／行動／環境／西洋／言語／国際／東洋／基礎／現代／人間／中国／英語／文化史／交流／アジア史／日本史／地理学／地域／西洋史学／美学藝術学／総合／文化遺産／日本文学／日本語／史学／アーカイブズ／世界史／超域／外国语／多文化／行動／児童／発達心理学／図書館／文化行政／デザイン／マンガ／アニメーション／英米文学／書道／絵画／宗教／英米／共生／映像／情報／教育／ヨーロッパ／学芸／中国語／国語国文／音楽／メディア／法文学／
②社会、芸術、表現、教育、総合、情報、経営、と共に起する=111	社会学部社会文化システム学科	社会／システム／教育／現代／芸術／日本文学／美術／美術史／文化財保存修復／表

	社会学部教育文化学科 総合政策学部国際政策文化学科 総合科学部人間文化学科	現／総合／表象／日本語／英語／英文学／政策／情報／メディア／栄養／食文化／デザイン／音楽／音楽創作／コンピュータ音楽／作曲／音楽療法／幼児音楽教育／コミュニケーション／創造／服飾／海洋科学／神道／自然情報／ソーシャルメディア／エンターテインメント／コミュニケーション／経営／ビジネス／人間／環境／地域／国際／言語／学校／教育実践／障害児教育／教員養成／伝統／スポーツ／科学／複合／ライフ／社会福祉／こども文化／子ども発達／応用健康／心理／ファッショント／観光／教養／国際／臨床心理／異文化／経済／マネジメント／金融／法学／通信／文化財／歴史／造形／カウンセリング／映画／演劇／交流
③外国語、生活、地域、国際、コミュニケーションと共に起する = 71	外国語学部交流文化学科 外国語学部国際文化交流学科 国際言語文化学部英語英文学科 国際学部地域文化学科	外国语／交流／国際／協力／観光／生活科学／生活／幼児保育／創造／福祉／環境／地域／共創／中国語／中国／日本語／日本／異文化／コミュニケーション／歴史／芸術／教育／システム情報学／スポーツ／児童教育／音楽／芸術／言語／表現／人文／英語／キャリア創造／子ども／創造／教養／臨床心理／東アジア／英文学／英米／多文化／言語／国際関係
④文化と共に起する = 31 人間と共に起する = 30 人文と共に起する = 53	人文・文化学群人文学類 人文・文化学群日本語・日本文化学類 人間文化学部メディア社会学科 人間文化学部メディア情報文化学科	人文／人文学／日本語／日本／比較／こども／ヨーロッパ／コミュニケーション／メディア／異文化コミュニケーション／歴史／遺産／人間／人類／日本・東アジア／日本伝統／言語／国際／国際言語／欧米／表現／英語／英米／現代／福祉／観光／日本文学／社会／人間発達／スポーツ／芸術創造／探究／行政政策

以上の表1のように、日本の大学の学科名は共起するキーワードを分類していくと大きくは4種類のジャンルに分けることができた。命名法の相違は、各社会での認知言語学的な事象のカテゴリー化の相違を反映していると考えられる。カテゴリー化の相違には、現在の説では、二つの大きな類型が認められる。⁷一つの類型はプロトタイプとそれが拡張した周辺的成員によるものである。日常での「植物」「動物」に対する「鳥」のように、ある経験的概念は学術的な必要十分条件による分類ではなく、スズメのような日常目にしている

⁷ 認知意味論の基本的紹介はF. ウンゲラー&H. J. シュミット／池上嘉彦他訳(1998／2000)『認知言語学入門』大修館書店参照。現在、よく引用される詳細な論考のひとつはジョージ・レイコフ／池上嘉彦・河上誓作他訳(1993／2003)『認知意味論—言語から見た人間の心』紀伊国屋書店参照。

中心的成員がプロトタイプとなり、その周囲または下位に羽の生えた鳥はもちろん蝙蝠のような羽のあるものまでが関係付けられるようになってできている。これは、学術概念のように世界の構造を忠実に記述しようとする志向からではなく、人間が主体的に生活世界での経験によってプロトタイプを中心に非均質的に創り上げた意味のまとまりである。⁸もうひとつの類型は、家族的類似によるものである。たとえば「ゲーム」の中の盤を使ったボードゲーム、特朗普、ボールを使ったゲームのように鄰接する一個一個は類似性を持つが全体的には類似性がない家族的類似性による場合がある。こうしたカテゴリーは網の目のように少しづつ重なり合う類似性によって相互に関連し合っている。⁹しかし、「鳥」の場合でも分かるように、経験的概念では実は二つの類型は相互に連続して影響しあっており、截然とした境界で分けることは難しい。だが、カテゴリー化の二つの極として見れば、日常的な語彙の分類で特徴を捉える際に有効な原理と考えられる。本論文では、事例研究の理解しやすい分類原理としてプロトタイプとそれが拡張した周辺的成員と家族的類縁性という概念を用いて考察を行いたい。

さて、調査した2013年の日本の大学（全783校）の学部学科名の「文化」例は209校（26.7%）445例で、表1のように①文学（文芸、法文、文教育等）と共に起する場合149例、②社会、芸術、表現、教育、総合、情報、経営と共に起する場合111例、③外国語、生活、地域、国際、コミュニケーションと共に起する場合71例、④その他の共起例として文化31例、人間30例、人文53例となった。

日本で「文化」と共起する学科名、専攻名を見ると、旧来の学科分類が具体的な専攻では、そのまま「○○史」「○○文学」「○○語」のように残っている大学が少なくない。「文化」は、日本の大学の場合、旧来の文学部、外国語学部、社会学部（経済、経営、法律を除

⁸ 辻幸夫編（2001／2007）『ことばの認知科学事典』大修館書店 P134、135 参照。

⁹ 注7 F. ウンゲラー&H. J. シュミット（1998／2000）P32, 33 参照。

く)、教育学部の人文社会と体育芸術分野に属していた、文学、語学、歴史、哲学、民俗学、人類学、社会学、メディア研究、マスコミ研究、地域研究、教育学、心理学、教科教育、家政などの学科を再統合するために用いられている、一種の集合名詞で、基礎にあるのは旧来の学科分類の枠である。現在の日本の大学では「文化」それ自体が新しい研究対象を意味している場合は少ないように見える。つまり、元あった各学科を再統合する一種の集合名詞として、旧来あった分類を統合するキーワードとして「文化」を使った家族的類縁性によるものであり、新しい研究対象や教育目的（プロトタイプ）が生まれて、そのために命名した場合は非常に少ないように見える。

また、言語教育としての日本語教育（その国の外国語人材としての日本語人材の教育＝共通語は日本語、研究言語は日本語）と地域研究としての日本研究（その国の視点からの海外を対象とした研究の一分野としての日本地域の研究＝共通語はその国の国語、研究言語はその国の国語）という海外での区分で見ると、日本の大学にある大半の「文化」関係学科は、外国語を使って海外との交流人材を育てる外国語教育や国際関係学科より、自国の視点を中心にして自分の国の国語で特定地域を研究する地域研究に「文化」を主に位置づけているように見える。

以上を見ると、日本の場合、「文化」は国際交流の中での相互理解の局面で問題になる対象というよりも、日本の自国中心の視点から海外を見る地域研究の中に位置づけられている、世界の各民族社会集団相互の区別を示す「○○民族や○○国」の特徴を統括するような概念と言えよう。

さらに、日本では、法律政治系、自然系、技術系、ビジネス系、金融系など実学系の学科では「文化」と共起する例は少なく、経済活動、システム、技術など社会的物質的な運営との関係で「文化」を捉える面は希薄と言える。その点で、実用性実学性に乏しく、またその点でキャリアデザインや職業教育にも結びつけにくい傾向が生まれるとも考えられる。

データは示さないが、大学院も同様で、2013年の167の大学研究科（全672校）に「文化」の名称が含まれているが、共起する語は学部とほぼ同じである。

現在の日本の大学の「文化」関係の学科命名法は学部、大学院を問わず、基本的に家族的類縁による経験的カテゴリー化に拠ると言えよう。

2.2 台湾の学科名命名の特徴

次に、台湾の大学の学部学科名称での「文化」のカテゴリー的位置付けの概要を示すと以下の表2のようになった。

表2 台湾の学科名命名分類概要（用例数が少なくなるので学部、大学院全体）

特徴	学科名例	共起キーワード
①社会系、メディア系、工科系と共に起する地域、族群、観光、旅融、数位、台湾文学、民族、客家、経営、芸術、台湾語言のジャンルと共に起する=67	國立交通大學人文社會學系（族群與文化） 國立臺東大學公共與文化事務學系 國立中興大學台灣文學與跨國文化研究所	文学／アジア／コミュニケーション／ドイツ 人文／族群（種族、エスニックグループ）／科技（工科）／公共／事務／南島／区域政策／発展／事業／産業／創新／設計（デザイン）／創意／事業／管理（経営）／營運（運営）／経営／数位（デジタル）／媒体（メディア）／觀光／資産維護（文化財保護）／資源（リソース）／休閒產業（レジャー産業）／自然資源／芸術／台湾／台湾文学／跨國（国際）／飲食産業／民族／宗教／組織管理（経営）／社会教育／行政／多元／客家／建築／原住民／健康／旅遊／海洋／国際事業／交流／族群關係／台湾歴史語言（台湾史台湾の言語）／閩南（台湾、福建）／課程設計（カリキュラムデザイン）／潜能開発（潜在能力発達）／教育／環境／
②外国語の跨国、日本語言、英美語言、欧洲と共に起する=9	東海大學日本語言文化學系／淡江大學英美語言文化學系／輔仁大學學校財團法人輔仁大學跨文化研究所／	日本語言（日本語）／外語／跨文化（国際文化）／德国（ドイツ）／欧洲／漢語（中国語）／英美語言（英米語）／国際交流／事業

2013年の調査で台湾の大学は国立、公立、私立合わせて160校でそのうち「文化」が付く学科、研究科は76学科あった。見ていくと、日本とは異なり台湾の大学では文科系社会系学科には「文化」を普通は付けず、「歴史学科」「中国文学科」のようにプロトタイプ的命名である。台湾の大学（全160校）の学部学科名で「文化」が入る例は47校（29.3%）76例で、比率的には日本の場合と同じだが、「文化」が付く研究教育ジャンルは大きく異なっている。

台湾で「文化」の名を持つ学科で目立つのは社会系、メディア系、工科系の 67 例で、「文化事業發展系」「文化創意系」のような観光、コンテンツ関係の経営学、工学分野の学科に付けている例が目立つことである。もう一つは、中心的文明に対し「台灣文化」「客家文化」のように周縁的エスニックグループの固有性を確保しようとする社会系分野に分かれる。残りは外国語関係学科の 9 例である。学部学科名から見ると、日本の「文化」は、類似要素を集合的に統合する家族的類似性による命名で地域研究的視点での日本と各地域の研究に用いられ、法律政治系、自然系、技術系、ビジネス系、金融系など実学系での「文化」との共起例は少なく、経済活動、システム、技術など社会的物質的運営との関係が希薄なのに対し、台湾の「文化」は目標の研究対象や研究方法によるプロトタイプ的命名で、現代の中心的文明（中華、欧米、日本）には用いず、工業、産業でのソフト面（デザイン等の美学的経営学、実用・実学スキル、ソフトウェア技術）と主流文明に対して周縁的民族の固有性を表示するため対象に用いている。

台湾の学科名は、極めてプロトタイプ的な研究教育内容に関する中心概念が明確に対象としてあり、それに関連した研究教育内容を周縁的関係で統合した命名法に拠っていると言えよう。

また、日本の場合、「文化」の付く学科内容が旧来の文科系社会系の非実用的研究教育に偏っていたのに対して、台湾の場合は、極めて現代的で実用的な経営、技術に関する分野に集中しており、実学・実用・実利を「文化」を関連概念としてカテゴリー化していることが分かる。その一方で、社会内の少数派文化や外国語学習と関係した主流文化に関して「文化」を用いており、これも明確なプロトタイプを持っている。日本の場合、外国の文化を位置づける学科で日本語での研究教育を中心とした地域研究になっていたのに対し、台湾では少数文化の独自性を探求したり、外国語学習を中心にしてのコミュニケーションを重視した研究教育に「文化」が位置づけられている。

以下に日台の「文化」関係学科命名の特徴をまとめた。

表3 日台の「文化」関係学科命名の比較

項目	日本の「文化」	台湾の「文化」
命名規則	家族的類似性の命名	プロトタイプ的命名
カテゴリー化のジャンルと特徴	①旧来の文科系社会系学科の再統合 ②日本を中心とした地域研究的視点での日本および各各地域の研究推進 ③法律政治系、自然系、技術系、ビジネス系、金融系など実学系の学科は「文化」と共起する例は少ない	①工業、産業でのソフト面（美的経営）の運営やスキルの研究教育 ②周縁的民族の固有性の探究 ③外国語学習による主流文化の研究教育
社会的位置付け	非実利的で経済活動、システム、技術など社会的物質的な運営との関係が希薄	①文化と現代のソフト技術を結合した実用的・実利的内容 ②各文化の固有性の理解

このように「文化」と各研究教育分野との関係付けは、今回の事例で見る限り、各社会文化集団で極めて特異で、独自性を持っている。このことは、何らかの外的対象がこうしたカテゴリー化による分類の原因ではなく、むしろその言語を使っている各社会文化集団の主体的な判断や目的がこうしたカテゴリー化による分類の背景にあることを推測させる。

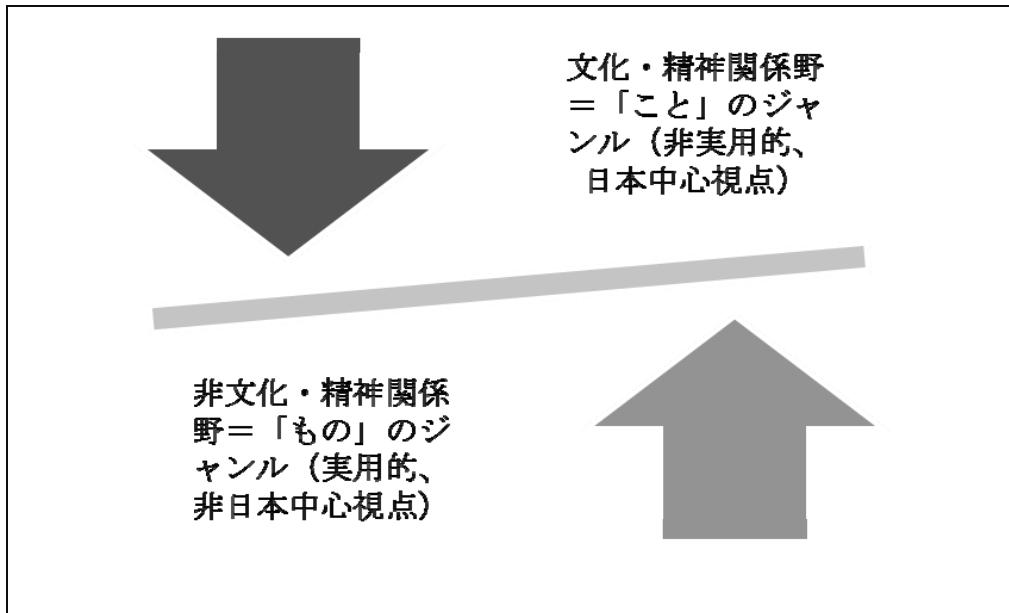
この点から言えば、現代の大学での研究活動では、ともすればあらかじめ明確な研究対象があってそれに応じて研究ジャンルが規定されて、各研究活動や成果が生まれているかのように錯覚しているが、実は逆で研究ジャンルが各社会文科集団で何らか理由や目的で主体的意味的に決定されているために、その対象を扱う研究分野が確立したと見ることもできよう。従って、客観的な研究対象の範囲や対象自体と研究ジャンルとは客観的で論理的に必要十分な対応関係にはなく、その社会文科集団の歴史的社会的な経験の蓄積とその

記号化体系の産物として偶然そうしたカテゴリーに形成されていると言えよう。

3. 日台の「文化」関係学科命名法の差異の背景

日台でなぜこのような「文化」関係学科命名法の差異が生まれたかは一概に解答を得ることは難しいとしても、考察してみると極めて面白い社会文化的事象と関係の深い問題である。

図 日本的な対象のカテゴリー化模式図



考えられる背景として、日本の場合は少子化や大学の教育経費削減による学部学科の統廃合の結果、こうした特徴が生まれたと推定できるが、実は 1990 年以降、日本の国公立大学の法人数は 39 校から 86 校に増加しており、また学生数も約 3 倍に増加していて、家族的類縁性による「文化」関係学科の命名が統廃合の影響だけではなく、研究教育編成上の主体的概念でもあることが分かる。¹⁰

¹⁰日本の大学教育の現状は、文部科学省（2014）「公立大学について」
http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kouritsu/参照（2014年8月30日閲覧）。

研究教育編成上の主体的概念としてこうした家族的類縁性による原理を用いているとすれば、日本の場合、先に見たように「ゲーム」の中の盤を使ったボードゲーム、トランプ、ポールを使ったゲームのように鄰接する一個一個は類似性を持つが全体的には類似性がない学科や研究対象がひとつに統合されることになり、極めて漠然とした研究教育の対象が並列していることになる。なぜこうした命名をする必要があるのか。その理由の一つは、「文化」で排除された研究ジャンルと対応させてみれば分かるであろう。今回の「文化」をキーワードにしてカテゴリー化された類縁語の範囲からすると日本では、以下のような暗黙の分類原理が機能していると推測される。これは近代に西洋の近代的研究と学校制度が日本に導入されたさいも、典型的には外国語教育を共通の基礎教育にして、ひとつは文哲史と言われる文科系の大学学科が初等中等学校教員養成を中心目的に試行錯誤を経て編成される一方で、もう一方では企業等での実業系人材を養成する経済、金融、工学、医学などの学科が実学型学科として別に編成されていった過程とよく似ている。¹¹

対象を分類しているカテゴリー化の原理は、先にも述べたように対象の分類について必要十分な客觀性に拠るのではなく、経験的で主体的な言わばその社会文化集団の人間活動の結果であり、世界と成員が言語を介して関係する方法でもある。日本の文化論に関して従来からも指摘してきた「こと」と「もの」の基本的区別がこうした点でも現在、具体的に研究教育という近代的分野で暗黙のうちに作用していると推測できることは興味深いと言えよう。¹²

一方、台湾の場合は、日本とはまったく異なった対象分類原理を取っていると言える。基本的に日本では一緒にできない民族系、外国语系の「こと」ジャンルと実学系の「もの」ジャンルが台湾では

¹¹ 日本の近代教育の成立過程は、注5の天野郁夫（2005）、同（2007）を参照。

¹² 「こと」と「もの」は日本語の形式名詞とされるが、語彙や文の成分としても多くの表現を生みだしていると同時に、近年でも津田雅夫（2011）『「もの」の思想』文理閣のように日本思想の基本的概念として論じられている。

同じ範疇で、カテゴリー化されているからである。台湾での分類原理は何であろうか。関連させる要素によって様々な考え方が出せるが、プロトタイプ的命名という原理から考えると、日本とは異なつてその志向する対象に関係が深いと見ることができる。「文化」の付かない学科と比べてみると、例えば以下の二つの台湾の国立大学での分類のように台湾の大学はプロトタイプ、つまり従来の研究教育の枠組みの中で最も典型的な対象を「〇〇学」のように決めて、それと対応した学科名を付けるのが一般的と言える。

資料 国立台湾大学の文学院学科分類

中國文學系／外國語文學系／歷史學系／哲學系／人類學系／圖書資訊學系／日本語文學系／戲劇學系／藝術史研究所／語言學研究所／音樂學研究所／臺灣文學研究所／華語教學碩士學位學程／翻譯碩士學位學程／

国立政治大学の文学院学科分類

中國文學系／台灣史研究所／歷史學系／台灣文學研究所／哲學系／華語文教學碩/博士學位學程／圖書資訊與檔案學研究所／國文教學碩士在職專班／宗教研究所／圖書資訊學數位碩士在職專班

これが台湾での学科名命名の基本原則で、これに入らない場合、「文化」という語を組み込んで新しい分類を行っている、あるいは新しい分野を生みだしていると言えよう。

「文化」と共起する地域、族群、觀光、旅融、数位、台湾文学、民族、客家、經營、藝術、台湾語言のような語から見れば、いずれも 1990 年代までの伝統的学科の中では、あまり大きな話題にならなかつた最近のテーマを取り上げていると言うことができる。近年の台湾での民主化やグローバル化による社会変動の中でみな新たに対象化された民族系、外国語系の人間集団に関わるジャンルと、觀光や地域に関する実学系のスキル・經營学ジャンルだと言える。しかも、「國立交通大學人文社會學系(族群與文化)」、「國立臺東大學公與文化事務學系」のような語例を見れば分かるように「與」で複

数の名詞を結合して今までとは異なる新しい業務分野、研究分野を志向しようとしている。伝統的命名でない場合、新開拓の分野かどうかが隠れたプロトタイプのキーワードになっていると言えよう。台湾の場合は、社会集団または実業系の分野で新しく開拓できそうな分野に「文化」を付けて、研究対象を広げた、あるいは、今まで気づかなかつた領域を開拓したと言えよう。

いずれにしても日本と台湾の「文化」に関わる学科名では、同じ漢字語彙でありながら極めて異質なカテゴリー化を行っており、以前から続いている近代に生まれた伝統的学科名は重なっていても、現在新たに開拓されている分野についてのカテゴリー化規則は大きく異なっている。紙数も尽きたので認知言語学的検討は今回は行わないが、ジョージ・レイコフ（1993／2003）がサピア＝ウォーフの仮説¹³以来の哲学的问题として論じているように、語彙論は言語単位や表現の問題であると同時に、ある社会文化集団の生活世界での主体の活動を端的に示す思想的課題、また分類という人間の基本的認識活動に関する問題領域であることは今回の結果からも再認識することができたと言えよう。¹⁴

4. おわりに

ミハイル・バフチンが指摘するように具体的な社会的ジャンルを持った語彙は、主体のパロール的特性を帶びており、一般性からは

¹³ サピア＝ウォーフの仮説は言語相対性仮説と呼ばれるが、同一対象を、異なる個人あるいは異なる社会文化集団がそれぞれ異なる現象として独自に概念化する可能性を指摘している。B.L. ウォーフ／池上嘉彦訳（1993）『言語・思考・現実』講談社、E. サピア、B.L. ウォーフ／池上嘉彦訳（1995）『文化人類学と言語学』弘文堂参照。近年もその妥当性について継続した議論が続いている。一例として池内慈朗（2009）「芸術的思考におけるシンボル・システム理論とアフォーダンス理論からの「感性」の解釈の試み：イメージスキーマからみたメタファー概念とプロジェクト・ゼロの美術教育における視座」『美術教育学：美術科教育学会誌』30P65-79 参照。

¹⁴ 同注7 ジョージ・レイコフ／池上嘉彦・河上誓作他訳（1993／2003）第二部参照。

捉らえきれない独自の個性を持っている。ここではひとつの事例研究として共時的に異文化間比較の観点で以下の観点で日本と台湾の「文化」をキーワードとした学科名の命名法を対象に考察を行ってみた。その結果、日本の「文化」関連学科は家族的類似性の命名が目立ち、旧来の文科系社会系学科の再統合、本を中心とした地域研究的視点での日本および各各地域の研究推進が主要テーマで、法律政治系、自然系、技術系、ビジネス系、金融系など実学系の学科は「文化」と共起する例は少ないことが分かった。

一方、台湾の「文化」関連学科はプロトタイプ的命名をしており、工業、産業でのソフト面（美的経営）の運営やスキルの研究教育、周縁的民族の固有性の探究、外国語学習による主流文化の研究教育に限定した使用が見られた。日本での「文化」は、非実利的で経済活動、システム、技術など社会的物質的な運営との関係が希薄でありその背景には、伝統的な「こと」と「もの」の判別原理が働いていると推測できる。しかし、台湾では文化と現代のソフト技術を結合した実用的・実利的内容でしかも各文化の固有性の理解を志向し、新分野開拓に重点が置かれている。

こうしたカテゴリー化の違いは、各文化の固有の価値観によると推測できる。パロール的語彙論あるいはジャンル語彙論の可能性は極めて興味深い結果を産み出す可能性を持っているに違いない。こうした命名法と社会的ジャンルの関係についてさらに考察を進めていきたい。

注記

本論文は台湾国家科学委員会専題研究 NSC101-2410-H-032-070-の成果として、2013年6月の日本比較文化学会全国大会でまず一部を口頭でパネル発表し、続いて科技部専題研究 MOST 102-2410-H-032-033-の研究成果として、翌年に新たな視点で大幅に加筆訂正をおこない論文化したものである。

主要参考文献

- 天野郁夫 (2005) 『教育と日本の近代 学歴の社会史』 平凡社
- 天野郁夫 (2007) 『近代日本の試験・教育・社会 「増補」 試験の社会史』 平凡社
- B. L. ウォーフ／池上嘉彦訳 (1993) 『言語・思考・現実』 講談社
- 池内慈朗 (2009) 「芸術的思考におけるシンボル・システム理論とアフォーダンス理論からの「感性」の解釈の試み：イメージスキーマからみたメタファー概念とプロジェクト・ゼロの美術教育における視座」『美術教育学：美術科教育学会誌』 30
- F. ウンゲラー&H. J. シュミット／池上嘉彦他訳 (1998／2000) 『認知言語学入門』 大修館書店
- 王敏東、許巍鐘 (2012) 「インフルエンザを表す名称について—1918／19年のパンデミックを中心に—」『東吳外語學報』 34
- E. サピア、B. L. ウォーフ／池上嘉彦訳 (1995) 『文化人類学と言語学』 弘文堂
- フェルディナンド・ソシュール／景浦峠・田中久美子訳 (2007) 『ソシュール一般言語学講義—コンスタンタンのノート』 東京大学出版会
- 辻幸夫編 (2001／2007) 『ことばの認知科学事典』 大修館書店
- 津田雅夫 (2011) 『「もの」の思想』 文理閣
- 中島平三・瀬田幸人 (2009) 『オックスフォード言語学辞典』 朝倉書店
- 日本語教育学会編 (2005) 『新版日本語教育事典』 大修館書店
- ミハイル・バフチク／伊東一郎訳 (1996／2005) 『小説の言葉一付：「小説の言葉の前史より」』 平凡社
- 飛田良文編 (2007) 『日本語学研究事典』 明治書院
- 前田直子 (2014) 「語彙（理論・現代）」『日本語の研究 特集 2012年・2013年における日本語学界の展望』 10-3
- 賴錦雀 (2013) 「NS, CEFR, JFS 對專業日語教育語彙指導之啓示」『東吳日語教育學報』 41
- 賴錦雀 (2011) 「日本語教科書における日本文化理解—『日本語を学ぼう@Taiwan』を例に」『台灣日語教育學報』 17
- 林立萍 (2014) 『日本昔話語彙の研究』 台大出版中心
- ジョージ・レイコフ／池上嘉彦・河上誓作他訳 (1993／2003) 『認知意味論—言語から見た人間の心』 紀伊国屋書店

付録（1）日本の学科名分類一覧

注：データ量が大きくなるため大学名は省略している。

学部名特徴	学科名	数	共起キーワード
外来語で始まる	グローバル地域文化学部グローバル地域文化学科／コミュニケーション文化学部日本文化コミュニケーション学科／コミュニケーション文化学部生活心理学科／	8	グローバル／地域／コミュニケーション／日本／コミ

	コミュニケーション文化学部異文化コミュニケーション学科／コミュニケーション学部／メディアコミュニケーション学部／情報文化学科／リベラルアーツ学部総合文化学科／リベラルアーツ群文化人類学専攻		ユニティ振興／生活心理／メディアコミュニケーション／情報／リベラルアーツ／総合／人類学
人文との共起	人文・文化学群人文学類／人文・文化学群日本語・日本文化学類／人文・文化学群比較文化学類／人文学部こども文化学科／人文学部ヨーロッパ文化学科／人文学部人文コミュニケーション学科メディア文化コース／人文学部人文コミュニケーション学科 異文化コミュニケーションコース／人文学部人文コミュニケーション学科歴史・文化遺産コース／人文学部人間文化学科／人文学部人間文化課程／人文学部人類文化学科／人文学部文化学科／人文学部日本・東アジア文化学科／人文学部日本文化学科／人文学部日本伝統文化学科／人文学部日本語日本文化学科／人文学部比較文化学科／人文学部言語文化学科／人文学部国際文化学科／人文学部国際言語文化学科／人文学部 欧米文化学科／人文学部表現文化学科／人文学部英語文化コミュニケーション学科／人文学部英語英米文化学科／人文学部現代文化学科／人文学部歴史文化学科／人文学部福祉文化学科／人文学部観光文化学科／人文学部一部日本文化学科／人文学部一部 英米文化学科／人文学群日本文学・文化学類／人文社会学部国際文化学科／人文社会学群人間発達文化学類スポーツ・芸術創造専攻／人文社会学群人間発達文化学類人間発達専攻／人文社会学群人間発達文化学類 文化探究専攻／人文社会学群行政政策学類社会と文化専攻／人文社会科学部国際文化課程／人文社会科学部（昼間コース）言語文化学科／人文科学部表現文化学科	53	人文／人文学／日本語／日本／比較／こども／ヨーロッパ／コミュニケーション／メディア／異文化コミュニケーション／歴史／遺産／人間／人類／日本・東アジア／日本伝統／言語／国際／国際言語／欧米／表現／英語／英米／現代／福祉／観光／日本文学／社会／人間発達／スポーツ・芸術創造／探究／行政政策
人間と共に	人間文化学部メディア社会学科／人間文化学部メディア情報文化学科／人間文化学部 人間文化学科／人間文化学部人間文化学科人間文化コース／人間文化学部人間文化学科情報ビジネスコース／人間文化学部人間関係学科／人間文化学部心理学科／人間文化学部日本語日本文学科／人間文化学部 生活デザイン学科／人間文化学部生活栄養学科／人間文化学部地域文化学科／人間文化学部国際コミュニケーション学科／人間文化学部国際ヒューマン・コミュニケーション学科／人間文化学部国際文化学科／人間文化学部国際学科／人間文化学部英語コミュニケーション学科／人間文化学部英語英文学科／人間文化学部健康科学科／人間文化学部歴史文化学科／人間文化学部歴史民俗・日本語日本文化学科／人間学部人間文化学科／人間社会学部文化学科／人間科学部文化社会学科／人間関係学部人間文化学科／人間環境学部文化コミュニケーション学科	31	人間／メディア／社会／情報／生活福祉／ビジネス／関係／心理／日本語／日本文学／デザイン／栄養／地域／国際／コミュニケーション／ヒューマン／英語／英文学／健康科学／歴史／民俗／環境
文化で始まる文化を含む	文化言語学部文化言語学科アメリカ・東アジア文化言語コース／文化言語学部 文化言語学科日本文学・言語コース／文化言語学部文化言語学科地域文化・社会コース／文化言語学部文化言語学科書道コース／文化学部文化学科／文化学部国際文化学科／文化表現学部日本文化創造学科／文化表現学部国際英語学科／文化表現学部情報メディア学科／文化政策学部文化政策学	30	言語／アメリカ／東アジア／日本文学／地域／社会／書道／国際／表現／英語／情報／メディア／政策／芸術／教育／人間／

	科／文化政策学部国際文化学科／文化政策学部芸術文化学科／文化情報学部メディア情報学科／文化情報学部文化情報学科／文化教育学部人間環境課程／文化教育学部国際文化課程／文化教育学部学校教育課程／文化教育学部美術・工芸課程／文化創造学部文化創造学科／文化創造学専攻・アーカイブ専修／文化創造学部文化創造学科文化創造学専攻・書道・国語専修／文化創造学部文化創造学科文化創造学専攻・観光専修／文化創造学部文化創造学科初等教育学専攻・子ども発達専修／文化創造学部文化創造学科初等教育学専攻・学校教育専修／文化構想学部文化構想学科・文芸・ジャーナリズム論系／文化構想学部文化構想学科・多元文化論系／文化構想学部文化構想学科・社会構築論系／文化構想学部文化構想学科・表象・メディア論系／文化構想学部文化構想学科・現代人間論系／文化構想学部文化構想学科・複合文化論系／日本文化学部国語国文学科／日本文化学部歴史文化学科／比較文化学部 比較文化学科		環境／美術／工芸／創造／アーカイブ／国語／観光／初等教育／子ども発達／学校教育／構想／文芸／ジャーナリズム／多元／社会構築／表象／現代／複合／国語国文／歴史／比較
文学（文芸、邦文、文教）と 共起する	文学部アジア文化学科／文学部コミュニケーション文化学科／文学部ドイツ語圏文化学科／文学部フランス語圏文化学科／文学部人文学科日本の歴史と文化コース／文学部人文学科比較文化コース／文学部人文学科欧米の歴史と文化コース／文学部人文学科社会文化講座／文学部人文学科歴史学・文化史学コース／文学部人文学科（哲学・思想文化学、倫理学、中国哲学、インド哲学専修）／文学部人文学科・地理学・考古学・文化財学コース／文学部人文学科・行動・環境文化学系／文学部人文学科・西洋文化学系／文学部人文学科・言語文化学専修コース／文学部人文学科・国際文化学域／文学部人文学科・東洋文化学系 文学部人文学科・哲学・思想文化学 コース／文学部人文学科・哲学基礎文化学系／文学部人文学科・基礎現代文化学系／文学部人文学科・歴史文化学専修コース／文学部人文社会学科人間文化学／文学部人文社会学科日本文化学／文学部人文社会学科西洋文化学／文学部 人文社会学科東洋文化学／文学部人文社会学科欧米言語文化コース／文学部 人文社会学科社会文化学／文学部人文社会学科現代文化コース／文学部人文社会学科・ドイツ語文学文化専攻／文学部人文社会学科・フランス語文学文化専攻／文学部人文社会学科・中国言語文化専攻／文学部人文社会学科・英語文学文化専攻／文学部文化史学科／文学部文化交流学科／文学部文化財学科／文学部文化歴史学科・アジア史学専修／文学部文化歴史学科・日本史学専修／文学部文化歴史学科・地理学地域文化学専修／文学部文化歴史学科・西洋史学専修／文学部文化歴史学科・美学芸術学専修／文学部文化歴史学科・哲学倫理学専修／文学部文化総合学科／文学部文化遺産学科／文学部文学科・日本文学・文化専攻／文学部日本文化学科／文学部日本文学文化学科／文学部日本語日本文化学科／文学部日本語日本文化学科現代日本語専修／日本文化専修／文学部比較文化学科／文学部史学・文化財学科日本史・アーカイブズコース／文学部史学・文化財学科世界史コース／文学部史学・文化財学科 考古学・文化財科学コース／文学部史学・文化財学科 環境歴史学・文化遺産学コース／文学部史学科超域文化学専修／文学	149	文学／アジア／コミュニケーション／ドイツ語（圏）／フランス語（圏）／日本／歴史／比較／人文／欧米／社会／哲学／思想／倫理学／中国哲学／インド哲学／地理学／考古学／文化財／行動／環境／西洋／言語／国際／東洋／基礎／現代／人間／中国／英語／文化史／交流／アジア史／日本史／地理学／地域／西洋史学／美学芸術学／総合／文化遺産／日本文学／日本語／史学／アーカイブズ／世界史／超域／外国语／多文化／行動／兒童／発達心理学／図書館／文化行政／デザイン／マンガ／アニメーション／英米文学／書道／絵画／宗教／英米／共生／映像／情報／教育／ヨーロッパ／学芸／中国語／国語国文／音楽／メディア／法文学／

	部外国語文化学科／文学部地理学科・地域文化研究専攻／文学部多文化コミュニケーション学科／文学部行動文化学科／文学部児童文化学科 児童文学・文化専攻／文学部児童文化学科 発達心理学専攻／文学部言語文化学科／文学部国文学科 図書館・文化行政コース／文学部国史学科 文化財コース／文学部国際文化学科／文学部国際言語・文化学科 デザインコース／文学部国際言語・文化学科 マンガ・アニメーションコース／文学部国際言語・文化学科 日本語・日本文学コース／文学部国際言語・文化学科 國際文化コース／文学部国際言語・文化学科 英語・英米文学コース／文学部国際言語・文化学科書道コース／文学部国際言語・文化学科絵画コース／文学部国際言語文化学科／文学部宗教文化学科／文学部東洋思想文化学科／文学部欧米言語文化学科／文学部社会文化学科／文学部思想文化学科／文学部英米文化学科／文学部英語文化学科／文学部英語英米文化学科／文学部英語英米文化学科／文学部書道文化学科／文学部神道学科日本文化コース／文学部現代文化表現学科／文学部現代日本文化学科／文学部歴史文化学科／文学部歴史文化学科・考古学・民俗学専攻／文学部歴史文化学科・歴史学専攻／文学部総合人文学科アジア文化専修／文学部総合人文学科文化共生学専修／文学部総合人文学科日本史・文化遺産学専修／文学部総合人文学科映像文化専修／文学部総合人文学科英米文化専修／文学部総合人文学科情報文化専修／文学部総合人文学科教育文化専修／文学部総合文化学科／文学部文学科書道文化コース／文学部文学科歴史文化コース／文芸学部ヨーロッパ文化学科／文芸学部文化・歴史学科／文芸学部文化史学科／文芸学部言語文化学科／文理学部中国語中国文化学科／日本文化学部国語国文学科／日本文化学部歴史文化学科／比較文化学部比較文化学科／学芸学部人間文化学科／学芸学部生活文化デザイン学科／学芸学部国際文化学科／学芸学部英語文化コミュニケーション学科／学芸学部音楽学科・音楽文化専攻／法文学部人文学科メディアと現代文化コース／法文学部人文学科ヨーロッパ・アメリカ文化コース／法文学部人文学科人間と文化コース／法文学部言語文化学科／法文学部国際言語文化学科／法文学部社会文化学科		
外国語、生活、地域、国際、コミュニケーションと共にす る	外国語学部交流文化学科／外国語学部 国際文化交流学科／外国語学部国際文化協力学科／外国語学部観光交流文化学科／生活科学部生活文化学科・幼児保育専攻／生活科学部生活文化学科・生活文化学専攻／生活創造学部生活文化学科／生活創造学部観光文化学科／生活福祉文化学部生活福祉文化学科／生活環境学部生活文化学科／交流文化学部 交流文化学科／地域共創学群スポーツ文化専攻／地域共創学群中国語・中国文化専攻／地域共創学群日本語・日本文化専攻／地域共創学群異文化コミュニケーション専攻／地域共創学群歴史文化専攻／地域学部地域文化学科／地域学部地域文化学科芸術文化コース／地域科学部地域文化学科／地域教育文化学部地域教育文化学科・生活環境科学コース／地域教育文化学部地域教育文化学科・システム情報学コース／地域教育文化学部地域教育文化学科・スポーツ文化コース／地域教育文化学部地域教育文化学科・児童教育コース／地域教育文化学部地域教育文化学科	63	外国語／交流／国際／協力／観光／生活科学／生活／幼児保育／創造／福祉／環境／地域／共創／中国語／中国／日本語／日本／異文化／コミュニケーション／歴史／芸術／教育／システム情報学／スポーツ／児童教育／音楽／芸術／言語／表現／人文／英語／キャリア創造／子ども／創造／教養／臨床

	化学科・音楽芸術コース／地域教育文化学部地域教育文化学科・食環境デザインコース／地域教育文化学部地域教育文化学科・異文化交流コース／地域教育文化学部地域教育文化学科・造形芸術コース／言語コミュニケーション学部中国言語文化学科／言語文化学部言語文化学科／国際コミュニケーション学部文化コミュニケーション学科／国際コミュニケーション学部 比較文化学科／国際コミュニケーション学部表現文化学科／国際人文学部 国際文化学科／国際文化交流学部日本文化学科／国際文化交流学部国際コミュニケーション学科／国際文化交流学部英語コミュニケーション学科／国際文化学部キャリア創造学科／国際文化学部 子ども教育学科／国際文化学部 文化創造学科／国際文化学部日本文化学科／国際文化学部国際文化学科／国際文化学部音樂学科／国際文化学部教養学科／国際文化学部臨床心理学科／国際言語文化学部東アジア言語文化学科／国際言語文化学部英語英文学科／国際学部地域文化学科／国際学部国際文化学科／国際学群・国際学類国際文化専攻／国際英語学部英米文化学科／国際教養学部比較文化学科／国際教養学部言語文化学科／国際関係学部多文化コミュニケーション学科／国際関係学部国際文化学科／国際関係学部国際言語文化学科		心理／東アジア／英文学／英米／多文化／言語／国際関係
社会、芸術、表現、教育、総合、情報、経営と共に起する	社会学部社会文化システム学科／社会学部教育文化学科／社会学部現代文化学科／芸術文化学部日本文学科／芸術文化学部芸術文化学科／芸術文化学部 美術学科／芸術学部美術史・文化財保存修復学科／表現学部表現文化学科／表現学部総合文化学科／表象文化学部日本語日本文学科／表象文化学部英語英文学科／政策情報学部政策情報学科 文化・表現メディアコース／栄養学部 食文化栄養学科／美術文化学部メディアデザイン学科／美術文化学部美術学科／音樂学部音樂文化デザイン学科音樂研究專修／音樂学部音樂文化デザイン学科音樂創作專修（コンピュータ音樂）／音樂学部音樂文化デザイン学科 音樂創作專修（作曲）／音樂学部音樂文化デザイン学科音樂療法專修／音樂学部音樂文化学科・幼兒音樂教育専修／音樂学部音樂文化学科・音樂コミュニケーションデザイン専修／音樂学部音樂文化学科・音樂文化専修／音樂学部音樂文化創造学科／食文化学部栄養学科／食文化学部食文化学科／食文化学部現代食文化学科／家政学部家政学科服飾文化専攻／海洋科学部海洋政策文化学科／神道文化学部神道文化学科・フレックスコース／情報文化学部自然情報学科／情報文化学部社会システム情報学科／情報文化学部情報システム学科／情報文化学部情報デザイン学科ソーシャルメディア／メディア・エンターテインメント／コミュニケーションデザインコース／情報文化学部情報文化学科／情報文化学部現代社会学科経営ビジネス／国際コミュニケーション／福祉マネジメントコース／教育人間科学部人間文化課程／教育文化学部人間社会課程／教育文化学部人間環境課程／教育文化学部地科学課程／教育文化学部国際言語文化課程／教育文化学部学校教育課程／教育文化学部学校教育課程・発達科学選修／教育文化学部学校教育課程・教科教育実践選修／教育文化学部学校教育課程・障害児教育選修／教育学部学校教育教員養成課程伝統文化教育	111	社会／システム／教育／現代／芸術／日本文学／美術／美術史／文化財／保存修復／表現／総合／表象／日本語／英語／英文学／政策／情報／メディア／栄養／食文化／デザイン／音樂／音樂創作／コンピュータ音樂／作曲／音樂療法／幼兒音樂教育／コミュニケーション／創造／服飾／海洋科学／神道／自然情報／ソーシャルメディア／エンターテインメント／コミュニケーション／経営／ビジネス／人間／環境／地域／国際／言語／学校／教育実践／障害児教育／教員養成／伝統／スポーツ／科学／複合／ライフ／社会福祉／こども文化／子ども発達／応用健康／心理／ファンション／

	発達専攻／教育学部芸術スポーツ文化課程／教育学部芸術文化課程／教育学部芸術文化課程／教育学部情報文化課程／教育学部教育文化学科／教育学部第二類（科学文化教育系）／教育学部第三類（言語文化教育系）／教育学部総合文化教育課程／教育学部複合文化学科／教育学部第一部教養学科文化研究専攻／教育福祉科学部 情報社会文化課程／教養学部言語文化学科／教養学部教養学科地域文化研究分科／教養学部教養学科超域文化学分科／現代ライフ学部人間文化学科メディア文化コース／現代ライフ学部人間文化学科社会福祉コース／現代文化学部こども文化学科／現代文化学部マスコミュニケーション学科／現代文化学部子ども発達教育学科／現代文化学部応用健康心理学科／現代文化学部言語文化学科・日本語文化コース／現代文化学部言語文化学科・国際コミュニケーションコース／現代文化学部国際ファッショング文化学科／現代文化学部国際文化・観光学科／現代文化学部国際教養学科／現代文化学部社会臨床心理学科／現代文化学部現代文化学科／現代日本社会学部現代日本社会学科伝統文化分野／現代社会学部環境文化学科／現代教養学部人文学科英語文学文化専攻／異文化コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科／経済学部文化経済学科／経済学部文化経済学科／経営文化学部ビジネスマネジメント学科／経営文化学部ビジネス経済学科／経営文化学部経営法学科／通信教育部文化財歴史学科／通信教育部歴史学部歴史文化学科／通信教育課程文学部 日本文学文化学科／通信教育課程・教養学部教養学科 人間と文化コース／造形学部芸術文化学科／造形学部通信教育課程芸術文化学科／歴史学部歴史文化学科／総合人間学部言語文化学科／総合人間科学部表現文化学科／総合文化学部人間福祉学科心理カウンセリング専攻／総合文化学部人間福祉学科社会福祉専攻／総合文化学部日本文化学科／総合文化学部社会文化学科／総合文化学部英米言語文化学科／総合文化学部総合文化学科／総合文化学群映画コース／総合文化学群音楽コース／総合文化学群造形デザインコース／総合文化学群演劇コース／総合文化政策学部 総合文化政策学科／総合社会学部国際・日本文化コース／総合政策学部国際政策文化学科／総合科学部人間文化学科／観光メディア文化学部メディア情報文化学科／観光文化学部観光マネジメント学科／観光文化学部観光文化学科／観光学部交流文化学科		観光／教養／国際／臨床心理／異文化／経済／マネジメント／金融／法学／通信／文化財／歴史／造形／カウンセリング／映画／演劇／交流
--	--	--	---

付録（2）台湾の学科名

注：台湾の場合は参考に大学名を加えている。

学部名特徴	学科名	数	共起キーワード
社会系 メディア系 工科系	國立交通大学人文社會學系(族群與文化)／國立臺東大學公共與文化事務學系／國立臺東大學公共與文化事務學系(南島文化研究)／國立臺東大學公共與文化事務學系(區域政策與發展研究)／國立臺北科技大學文化事業發展系／國立高雄應用科技大學文化事業發展系／嘉南藥理科技大學文化事業發展系／弘光科技大學文化事業發展系／美和學校財團法人美和科技大學文化事業發展系／景文科技大學文化產業與創新設計研究所／美和學	67	人文／族群（種族、エスニックグループ）科技（工科）／公共／事務／南島／区域政策／发展／事業／產業／創新／設計（デザイン）／創意／事業／

	校財團法人美和科技大學文化創意系／國立勤益科技大学文化創意事業系／南華大學文化創意事業管理學系／國立高雄應用科技大学文化創意產業研究所／大仁科技大学文化創意產業研究所／國立臺中教育大學文化創意產業設計與營運學系／國立臺北教育大學文化創意產業經營學系／國立臺北教育大學文化創意產業經營學系碩士學位EMBA在職進修專班／國立中興大學文化創意產業學士學位學程／台灣首府學校財團法人台灣首府大學文化創意產業學位學程／國立屏東教育大學文化創意產業學系／東方學校財團法人東方設計學院文化創意設計研究所／亞太學校財團法人亞太創意技術學院文化創意設計研究所／國立高雄師範大學文化創意設計碩士學位學程在職專班／高苑科技大學文化創意設計與數位整合學位學程／東方學校財團法人東方設計學院文化創意設計學位學程／南開科技大学文化創意與設計系／龍華科技大学文化創意與數位媒體設計系／興國管理學院文化創意與觀光學系／康寧學校財團法人康寧大學文化創意學系／國立雲林科技大学文化資產維護系／佛光大學文化資產與創意學系／國立臺東大學文化資源與休閒產業學系／國立臺南大學文化與自然資源學系／實踐大學文化與創意學院學士班／高雄市立空中大學文化藝術學系／國立臺南大學台灣文化研究所／國立中正大學台灣文學研究所(台灣文化碩士在職專班)／國立中興大學台灣文學與跨國文化研究所／國立高雄餐旅大學台灣飲食文化產業研究所／國立東華大學民族文化學系／真理大學宗教文化與組織管理學系／國立臺灣師範大學社會教育學系-社會教育與文化行政班／國立交通大學社會與文化研究所／國立臺北教育大學社會與區域發展學系多元文化教育教學碩士學位班／國立高雄師範大學客家文化研究所／國立屏东科技大学客家文化產業研究所／國立中央大學客家社會文化研究所／國立交通大學客家社會與文化碩士在職專班／國立臺北藝術大學建築與文化資產研究所／國立屏東教育大學原住民族健康休閒與文化產業學士學位學程原住民專班／崑山科技大学旅遊文化發展學位學程／國立臺灣海洋大學海洋文化研究所／文藻外語學院國際事業暨文化交流研究所在職專班／國立東華大學族群關係與文化學系／國立臺北教育大學臺灣文化研究所／國立臺北教育大學臺灣文化研究所臺灣文化教學碩士學位班／國立東華大學臺灣文化學系／國立高雄師範大學臺灣歷史文化及語言研究所／國立高雄師範大學臺灣歷史文化及語言研究所臺灣研究碩士學位在職進修專班／國立金門大學閩南文化研究所／國立臺灣師範大學歐洲文化與觀光研究所／國立政治大學歐洲語言文化學程碩士在職專班／國立東華大學課程設計與潛能開發學系(多元文化教育)／國立新竹教育大學環境與文化資源學系／國立臺灣藝術大學藝術管理與文化政策研究所／輔仁大學學校財團法人輔仁大學藝術與文化創意學士學位學程		管理（經營）／營運（經營）／經營／數位（デジタル）／媒體（メディア）／觀光／資產維護（文化財保護）／資源（リソース）／休閒產業（レジャー産業）／自然資源／藝術／台灣／台灣文学／跨國（國際）／飲食產業／民族／宗教／組織管理（經營）／社會教育／行政／多元／客家／建築／原住民／健康／旅遊／海洋／國際事業／交流／族群關係／台灣歷史語言（台湾史台湾の言語）／閩南（台湾、福建）／課程設計（カリキュラムデザイン）／潛能開發（潜在能力発達）／教育／環境／
外国语	東海大學日本語言文化學系／淡江大學英美語言文化學系／輔仁大學學校財團法人輔仁大學跨文化研究所／輔仁大學學校財團法人輔仁大學跨文化研究所(比較文學)／輔仁大學學校財團法人輔仁大學跨文化研究所(語言學)／輔仁大學學校財團法人輔仁大學跨文化研究所(翻譯學)／淡江大學漢語文化暨文獻資源研究所／文藻外語學院國際事業暨文化交流研究所／東吳大學德國文化學系／	9	日本語言（日本語）／外語／跨文化（國際文化）／德国（ドイツ）／欧洲／漢語（中国語）／英美語言（英米語）／國際交流／事業

airiti References

- Amano,I. (2005) *Kyoiku to Nihon no Kindaika:Gakureki no Shakaishi*.
Heibonsha,Japan.
- Amano,I. (2007) *Kindainihon no Siken,Kyoiku,Shakai:"Zoho"Shiken no shakaishi*.
Heibonsha,Japan.
- Whorf,B.L.Trs.Ikegami,Y. (1993) *Gengo,Shiko,Genjitsu.Kodansha*,Japan.
- Ikeuchi,I. (2009) An Attempt to Interpret "Kan-sei (Aesthesia)" from Affordance Theory and Symbol System Theory in Artistic Thinking : Harvard Project Zero's View Point of Art Education Through the Concepts of Metaphor by Studies of Image Schema. *Art Education*,NO.30.
- Ou,B.&Kyo,G. (2012) Infuruenza wo arawasu meishonitsuite:1918/19nen no Pandemikku wo chushinni.*Togogaigogakuho*,NO.34.
- Sapir,E&Whorf,B.L.Trs.Ikegami,Y. (1995) *Bunkajinruigaku to Gengogaku*.
Kobundo,Japan.
- Saussure,D.F.Trs.Kageura,S.&Tanaka,K. (2007) *Soshuru Ippan gengogakukougi: Konsutantan no noto*.Tokyodaigaku Shuppankai, Japan.
- Tsuda,M. (2011) *Mono no Shiso*. Bunrikaku,Japan.
- Bakhtin,M. M.Trs.Ito,I. (1996&2005) *Shosetsu no Kotoba: Fu*"*ShosetsunoZenshiyori*. Heibonsha,Japan.
- Maeda,N. (2014) Goi:Riron,Gendai.Tokushu:2012nen,2013nen niokeru *Nihongogakkai no Tenbo. Nihongo no Kenkyu*,NO.10-3.
- Lai, J.(2013)Suggestion to Japanese for Specific Purposes Education Vocabulary Instruction From NS, CEFR, JFS. *Soochow Journal of Japanese Language Teaching*,NO.41.
- Rai,K. (2011) Nihongokyokasho niokeru Nihonbunkarikai:"Nihongo womanabou@Taiwan"wo reini.*Taiwannichigokyoikuhou*,NO.17.
- Rin,R. (2014) Nihonmukashibanashigoi no kenkyu.Taidaishuppan, Taiwan.
- Lakoff,G.P.Trs.Ikegami,Y.&Kawakami,S. (1993&2003) *Ninchiimiron:Gengo karamita Ningen no kokoro*. Kinokuniyashoten,Japan.

※2014年8月31日原稿受領 2014年11月1日審査通過